

---

# 平成30年 第2回定例会

## 一般質問 大橋 武司議員

平成30年 6月15日

---

### ▶質問

大田区議会公明党の大橋武司です。区民の皆様から寄せられるお声、要望をもとに現場を調査する中で、大田区民の皆様の安全・安心につながる取り組みに向けての質問をさせていただきます。理事者の皆様、お答えが難しい要望もあるかと思いますが、どうか、区民の皆様のよりよい生活に向けての要望でございます。誠意あるご答弁を何とぞよろしくお願い申し上げます。

まず初めに、空き家対策の取り組みについてお伺いをいたします。

平成25年の統計調査によりますと、大田区の空き家は6万1790戸、そのうち本区が直接把握、継続調査している空き家の数は、平成28年度264件、29年度は328件、今年度5月末時点で350件、区に寄せられる空き家等に対する相談は、平成28年度が507件、平成29年度は744件と、いずれも増加をしております。

本区では、平成25年4月1日に大田区空き家の適正管理に関する条例を施行し、平成26年5月には、長年にわたり所有者に対して適正管理をお願いしてきた空き家に対して、条例に基づき都内で初めて行政代執行を行い、管理不全な空き家の取り壊しを行い、メディアにもその取り組みが紹介されました。そして、平成26年12月には、大田区空き家等地域貢献活用事業を実施し、空き家等の利活用を図る取り組みを開始、さらに、所有者や区民からの様々な相談に対してワンストップで対応できる相談体制、空家総合相談窓口を開設するとともに、関係団体・機関と連携体制をとられるなど取り組まれておりますが、超高齢化社会を迎える現在、空き家の問題はますます増加し、本区としても、今後、物理的にも対応が難しいことが考えられます。

空き家の問題は、お聞きするところによると、例えば、所有者の方がお亡くなりになられたり、認知症になってしまったりなど、所有者の判断ができない状況になってから判断をするには、家族間の問題や手続きの困難さ、費用の問題など、立ちほだかる問題が多く、家がそのまま放置され、倒壊のおそれ、保安上の危険、衛生上の有害、景観も損ね、地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼし、「特定空き家」と言われる解決が難

しい状況になるなど、このままいくとさらに家族も近隣も困った空き家が増えていく可能性がございます。

そこでお伺いをいたします。本区は、空き家対策として先ほども申し上げました啓発事業、相談業務など、様々取り組みを積極的に行っていただいておりますが、それを該当する区民の方々に知っていただくこと、そして、何より早い段階から今後の意識を持っていただくための取り組みが重要であります。

提案ですが、区の相談窓口、お問い合わせ先、各種手続き項目、空き家になってしまったのデメリット、今後の活用のメリットなど、わかりやすく、漫画等も活用し、手に取って見ていただける区独自のものを作成し、介護や施設入所、認知症など家族等で支援しなくてはならなくなったときなど、区とかかわるタイミングのときに区民の皆様へ直接伝わる取り組みが必要と考えます。そのためにも、福祉部や他部局との連携で取り組む必要があると思いますが、見解をお聞かせください。

次に、区立図書館にブックシャワーの設置についてお伺いをいたします。

以前、私は決算特別委員会や委員会にて、区立図書館全館にブックシャワーの設置を要望させていただき、その後も取り組みを行っておりますが、ブックシャワーとは、ご存じの方も多いと思いますが、簡単にご説明を申し上げますと、送風により本のページに挟まったごみやほこり、髪の毛などを取り除き、紫外線により殺菌、さらに消臭抗菌剤の循環によりたばこのにおいなどを消臭するとともに、インフルエンザやノロウイルスなどの菌も殺菌でき、人体には全く無害であり、書籍を損傷することなく簡単に、そして清潔に本が使用できるため、特に小さなお子様がいらっしゃるお母様など、多くの方々に大変喜ばれております。使用方法は、扉をあけて書籍を置いて、ボタンを押して30秒から45秒間で簡単にできます。

現在、区立図書館16館中、ブックシャワー設置はこの4年間で4か所増設の8館、除菌ボックス設置を合わせると9館の状況です。ネット社会で発展する中ですが、本が大好きで、本を楽しみにされている方は本当に多く、読み聞かせ運動も広く積極的に行われており、図書館に行くとお子様から高齢者までたくさんの方々が来館されており、また、多くの方々がブックシャワーをご利用されております。多くの方々がさわる本は清潔であることはとても重要と考えます。

提案と要望ですが、区民のための図書館です。ブックシャワーを全館に設置できるよう、区として予算をつけ、計画的に設置していくことを求めます。見解をお聞かせください。また、使用は現在と変わらず無料で使用できるよう強く要望いたします。

次に、大田区に宇宙飛行士をお呼びして子どもたちに学習の機会をについてお伺いを

いたします。

4年前の第3回定例会の一般質問において、また、その日はちょうど「宇宙の日」に、ここ本会議場にて、私はこの年の12月に打ち上げられる小惑星探査機はやぶさ2の話を通し、伊豆高原学園に天文台を持つ大田区が、国際宇宙ステーションの日本人初の船長も務められた宇宙飛行士、若田光一さんをお呼びして、宇宙、そして環境や平和についてなど学べる機会をつくっていただきたい、また、夢と希望を育む取り組みを要望させていただきました。

若田光一さんは、今年の4月、宇宙航空研究開発機構JAXAの理事にご就任され、宇宙飛行士出身の理事は初めての誕生であります。また、先ほど触れましたはやぶさ2は、4年前の2014年の12月、無事打ち上げが行われ、その後順調に飛行を続け、これまでに30億キロメートル以上を飛行し、目指す「リュウグウ」到着まであとわずかに迫ってまいりました。このまま順調に行けば今月27日前後に到着予定であり、世界中が注目をしております。

ちなみに、はやぶさ2が目指す「リュウグウ」には、太陽系が生まれた46億年前の水や有機物が今でも残っていると考えられており、太陽の熱や紫外線など、さらされていない地中の物質を回収できれば、太陽系の成り立ちを解明する手がかりになるかもしれないと、大きな期待と夢と希望のプロジェクトです。

話は戻りますが、若田さんが宇宙でのミッションを達成するために掲げたテーマは「夢・希望・思いやり」。これを実行された若田光一さんをお招きして、大田区の子どもたちに直接お会いできる機会をと要望いたします。

先日、JAXAに直接お問い合わせをしましたが、「若田光一宇宙飛行士は、現在責任ある立場のお仕事をされており、大変困難な状況であります。申し込みはできません」と言われております。ぜひとも取り組みを要望いたします。見解をお答えください。

次に、JR大森駅東口バリアフリー化についてお伺いをいたします。

私の前任の大先輩でございます渡部登志雄元区議会議員の悲願でもあり、その思い、その取り組みを引き継がせていただき、現場を調査し、多くの区民の皆様からお声をお聞きしながら長年取り組んでまいりました、JR大森駅東口の下りエスカレーター設置が、いよいよ現実のものとなります。また、エレベーターの使用も、JR、そして駅関係企業、関係機関とご検討をいただいております。松原忠義大田区長をはじめ、関係所管の皆様との取り組みを高く評価いたします。

もう一つ、バリアフリー化に伴い、大森駅東口について、多くの区民の皆様、特に高齢者の方々からのお声に、大森駅東口のタクシー乗り場の危険な状況を改善していた

だきたいと要望が上がっております。実際、現地を調査いたしますと、タクシー乗り場の箇所が傾斜になっており、足の悪い高齢者やカートを押し歩きされる方など、転落する危険、また、傾斜が急であり、手すりもないため、とまれない危険な状況であります。ぜひ、バリアフリー化に合わせ、大森駅東口タクシー乗り場の改善を要望いたします。予算のかかる話でありますので、すぐに実行が難しい状況とは思いますが、JRに区民の皆様からのお声としてお伝え働きかけをお願いしたいと思っております。見解をお聞かせください。

次に、交通安全対策についてお伺いをいたします。

4年前にも取り上げさせていただきました。具体的な場所になりますが、大森北五丁目、六丁目、大森西一丁目、二丁目の中間、環状七号線と東邦医大通り（旧鬼たび通り）の交差する沢田の交差点の交通安全対策についてお伺いをいたします。

4年前、青信号で横断歩道を渡る小学生の児童が左折してきた大型トラックに巻き込まれ死亡するという重大事後が発生いたしました。私はその日、現地に駆けつけ、二度とこのような事故が起きないように、その日から事故発生時刻前後や他の時間帯など、数日間にわたり現地調査を続けました。現場調査を行いわかったことは、東邦医大通りは大型車は進入できないのに、標識も進入する車から見えるところには表示してなく、多くの大型車が進入していること、東邦医大通りから1本入る通学路の細い道路は2トン以上の車両は入れなくなっているが、標識は小さく、2トン以上の車が進入していること、また、警察官が交差点に立っていてもお構いなしに信号無視をして横断歩道を渡る自転車が多いことなど、その他多くの危険な状況がある交差点の実情であります。

私は、現地を調査後、大森警察に行き、安全対策の相談、そして大田区教育委員会、子育て支援課、道路は都道でありますので東京都議会議員、警視庁など、今後の安全対策について強く要望させていただき、その後、警察官による交通誘導、教育委員会からの交通安全誘導員配置、環状七号線沿いに左折巻き込み注意の看板設置、東邦医大通り入り口に大型貨物自動車等通行止めの標識設置をしていただき、さらに、その年の決算特別委員会でも安全対策について取り上げさせていただきました。教育総務課長からのお答えに、「大森警察署長宛てに、歩車道を分離した信号機の運用、警察官による定期的な交通整理、注意看板の設置の要望を行ってくださったこと、また、当該小学校の校長とPTA会長の連名でも、同じく大森警察署長に歩車道を分離した信号機の運用についての改善要望書を提出していただき、大森警察署のほうからは、警視庁に対し要望内容を伝えている旨と、幹線道路である環状七号線の交差点ということであることから、検討には時間を要するとの回答をいただいているところではございますが、委員から要

望いただいた内容につきましては、大森警察署を通じて警視庁にお伝えしており、今後も引き続き地元警察と連携をしながら、改善状況等を確認してまいりたいと考えております」とのご答弁をいただきました。

その後も、交通量が多い箇所のためか、なかなか大きな改善ができない中、昨年、平成 29 年には、沢田の交差点の目の前のマンションの塀に車が突っ込み、幸いけが人はなかったのですが、マンションの前の大きな塀が崩れ、さらに本年 2 月には、地域のご婦人が左折する車にひかれて死亡するという、あってはならない大切な命を失う重大事故がまた発生をいたしました。地域の方々をはじめ、各近隣町会からも、この沢田の交差点に対する改善のお声がたくさん上がっております。

大田区は広く、ほかにも重要な改善箇所はあると思いますが、大切なお 2 人の命がお亡くなりになっているという事実、また、大森西地区は保育園も増え、幼稚園、小学校、中学校、高校、福祉施設、高齢者施設、そして大森西地区は今後整備計画があり、さらに多くの方々が行き来されることが想定されます。また、内川沿いには現在大型ショッピングモールが建設中であり、マンションも現在増えております。道路も拡幅が進んでおり、さらに交通量が増え、現在もそうですが、地域をよくわかっていらっしやらない区外の方々も多く利用されることが予想されます。また、通学路においても、大森北に住まわれているお子様も、見えるところに大森第二中学校があっても、指定校の関係で沢田の交差点を渡り、大森第八中学校に通わなくてはならない現状があり、また、環状七号線を渡る際、青信号の時間が短いとお声もよく上がっております。あらゆる環境から交通安全対策の必要な箇所であります。

そこでお伺いをいたします。一つ目に、渋滞という大きな問題がございしますが、スクランブル交差点にしてしまう、また、それに向けて本格的な検証を進めていただきたいと思っております。二つ目に、沢田の交差点部分の路面の色を変えてはいかがでしょうか。三つ目に、沢田の交差点に交番を設置していただきたいと強く要望いたします。ぜひとも、東京都、警視庁に働きかけをお願いいたします。見解をお聞かせください。

次に、通学路安全総点検についてお伺いをいたします。

総点検という取り組みは公明党のモットーでございしますが、通学路での児童・生徒の事故が相次いだ事態を重く見て、平成 24 年 4 月に公明党の国会議員が中心となり対策プロジェクトを設置し、現地調査などを精力的に展開したうえで、政府に対し二度の政策提言を行い、その結果、全国の通学路緊急総点検を実施する動きとなりました。

また、大田区議会公明党を代表し、私も大田区で初めて通学路安全総点検を提案、要望させていただき、本区におきましては、平成 24 年 6 月から 8 月にかけて、通学路の総

点検が警察、小学校、教育委員会、当時のまちなみ維持課、都市基盤管理課など、ご協力により行われました。その結果、改善箇所が194か所あることが判明し、路側帯のカラ舗装やガードレールの設置、車両の速度抑制、注意喚起を呼びかける表示、巻きつけ看板の設置など、改善すべき194か所全ての改善を、児童・生徒を守るため、早急に行っていただいたことに高く評価をいたします。また、通学路など減速が必要な箇所への対策ゾーン30、当時、所管課長もご存じなかった時代に、大田区で初めて提案、要望させていただき、現在30か所を超える箇所に整備がされ、このほど、ゾーン30の効果が大きく評価され、死亡・重症事故も26.8%減少していることも明らかになりました。

そこでお伺いをいたします。道路状況や交通量、人口や環境は変化をいたします。警察、学校、教育委員会等と連携して、通学路点検を随時実施していただきたいと要望いたします。見解をお聞かせください。

また、横断歩道を渡るとき、現在、児童が持つ旗はもうどこにもありません。また、放課後子ども教室や学童など、冬場の帰りは夕方の早い時間から暗く、さらに小学生の場合、大型車やドライバーから見えない危険があります。

提案ですが、腕やランドセルに巻きつけられる反射材リストバンドを、できれば「はねぴょん」の絵が入った反射材リストバンドを作成し、児童・生徒に1人に1枚ではなく、数枚ずつ配布していただくことを要望いたします。

最後に、青色回転灯車による通学路パトロールの強化についてお伺いをいたします。

先月、新潟県で起きました小学2年生の児童が被害に遭われた事件、また、ほかにも子どもたちを狙った事件が多く報道されている現在、本区でも今週、児童が不審な人物につきまといられる不審者情報がありました。以前、NHKで相次ぐ連れ去り事件についての番組がありましたが、その中で、東京都内の住宅が密集する地域で、当時小学4年生の女の子が不審な男に連れ去られそうになったという実際の事件を例に挙げておりました。

女の子は、商店の並ぶ通りを1人で歩いていたところ、いきなり男に両腕をつかまれ駐車場に引きずり込まれましたが、偶然、車で通りかかった人が気づいて声をかけ、幸い女の子は逃げることができました。学校では事件の直前に、不審者に話しかけられたときは大声で叫ぶ、すぐに逃げるなどが記載されたプリントが配布されていましたが、実際、女の子は腕には大きなあざができるほど強く腕をつかまれ、全く身動きができず、走って逃げることもできない、これが現実と思います。

このとき、事件が起きていることに気がついた人は、地元にはほとんどいませんでした。現場の隣にあるお店は、いざというとき子どもが駆け込む子ども110番の家でした。

が、事件の日はこのお店も閉まっていたとのこと。こういったすきを狙って、人とは思えない、許すことができない犯罪が起きている現在、大田区では子どもたちを守るため、学校、教育委員会、地域の方々など、子どもたちの登下校を見守っていただいておりますが、さらに本区では、防災危機管理課が行っている青色回転灯車による通学路パトロール、青色回転灯車両をこの4月から2台から4台の増車し、さらにパトロール強化に取り組みが始まりました。

そこでお伺いをいたします。見通しがよくて安全そうな通学路にも周囲の目が届かない、犯罪に遭いやすい危険な場所、ホットスポットが潜んでいる場所があります。そういう意味では、普通の警備や見回りでは本当の安心、子どもたちを守れる取り組みではありません。子どもたちの命を守るプロによるパトロール、また、情報も常にキャッチしながら、動きも早く、臨機応変に対応できることが求められます。また、区内を回る場合、緊急で向かう場合は別ですが、大きな幹線道路を移動するのではなく、その際も効率的に学校近辺等を通りながら移動するなど、効率的な移動が大切と考えます。青色回転灯車による通学路パトロールの強化、こういった方が実際どのように取り組まれているのかお答えください。

また、現在、パトロールの時間帯は午後2時から6時までですが、放課後子ども教室は夕方5時までですが、学童などは延長で夜7時に学童を出る子どもたちもおります。教育委員会や子育て支援課との連携をとりながら、可能な限り実情に合わせた対応、取り組みを要望いたします。

どうか、子どもたちの本当の安全・安心な大田区、住みやすい、住み続けたい大田区を目指しての質問をさせていただきました。ご答弁を何とぞよろしくお願いいたします。

以上、大田区議会公明党、大橋武司の質問を終わります。ありがとうございました。

## <回答>

### ▶井上危機管理室長

私からは、青色回転灯車による通学路のパトロールについてのご質問にお答えします。

本年5月、新潟県において下校途中の児童が亡くなるという痛ましい事件が発生しました。昨年10月には区内においても、児童が車両に連れ込まれそうになるなどの事件も発生しております。平成29年度「警視庁子ども・女性の安全対策に関する有識者研究会」によりますと、小学生以下の子どもが犯罪被害に遭いやすい時間帯は、平日の下校時間以降が5割以上と発表されております。

区では、こうした状況を踏まえ、年末年始を除く毎日、小学校の下校の時間帯を中心に、警視庁OBの客引き客待ち防止等指導員が青色回転灯車を活用し、通学路の安全確保のため、パトロールを実施しております。本年4月からは、議員お話しのとおり、車を2台から4台に増車し、体制を強化いたしました。さらに、パトロール前に区内4警察署に立ち寄り、犯罪発生状況などの情報を交換するなど、パトロールを充実させております。地域や警察署から不審者情報を受けた場合には、その現場付近に青色回転灯車を集中させ、降車して警戒に当たるなど、臨機応変に対応しております。これまで、急病人の発生の際に居合わせた際には、救急隊の到着までの間、緊急対応した事例や、迷子の発生の際に、地域や警察と協力して捜索した例がございます。指導員の能力を十分に活用し、区民の皆さんの安全・安心に貢献しているものと考えております。今後も、青色回転灯車によるパトロール事業を充実させ、地域の子どもの見守りをしっかりとサポートさせていただきます。私からは以上でございます。

### ▶齋藤まちづくり推進部長

私からは、スポーツ観戦における区内産業の対応に関するご質問につきましてお答えいたします。

「みる」スポーツを楽しむ方にとりまして、応援するチームや所属選手のユニホーム、Tシャツ、鳴り物などのグッズは、チームや選手との一体感を醸成し、応援気分を高揚させる貴重なアイテムであると考えております。こうした物品の製造、販売等において区内産業の力を活用することは、新たなスポーツサービス業を創出し、ひいては区内産業の活性化につながるものと考えております。区内で開催されているイベントにおいて、区内企業が製作している缶バッジを配布し、イベントを盛り上げている例もございます。



また、区内のプロバスケットチームで、既にグッズの一部を区内企業で製作しております。さらに、商店会と連携し、試合会場にて地元商品を販売するなど、来場者を消費者として取り込む動きもございます。このような取り組みも参考にしながら、今後、関係部局と連携を図り、スポーツ観戦に来られる人を対象にした物品の製造・販売等を一つのビジネスチャンスと捉え、区内の産業振興に結びつけられるよう検討を重ねてまいります。私からは以上でございます。

## ▶西山福祉支援担当部長

私からは、玉川議員の福祉分野の二つの質問に順次お答えしてまいります。

まず、発達障がい児・者及び家族への支援の取り組みと展開についてのご質問ですが、発達障害は見えにくい障害と言われており、人とのかかわり方や行動などにおいて、親のしつけや本人の怠け等の問題と誤った捉え方をされることがあります。そのため、本人、家族のつらい思いに寄り添い、周りの人の正しい理解を促す必要があります。

現在、区は、ピアカウンセリング・専門相談、教育センターでのペアレントトレーニングを実施しているほか、発達障がいシンポジウム、発達支援応援フェアの開催等、発達障害の理解、啓発も進めております。また、障がい者総合サポートセンターの二期工事において、学齢期の発達障がい児の支援施設を平成31年3月に開設予定であり、相談、診察、療育のほか、地域支援事業などを実施してまいります。今後、福祉分野のみならず、保健・医療、子育て、教育などの関係部局の連携が重要となってまいります。本人が日常生活を送る場においても、本人やご家族の不安や悩みを受け止め、適切な支援が行き届くよう取り組んで、周囲の正しい理解を広めてまいります。

続きまして、医療的ケア児・者に対する支援についてのご質問ですが、平成28年3月の厚生労働省資料では、医療的ケア児は対象児の増加に加え、家族の介護・見守り時間的拘束の負担感が大きいと述べています。区は現在、家族や事業者などの関係者の思いやご意見などをお聞きしながら、平成30年度から3か年を計画期間とする「おおた障がい施策推進プラン」を策定しております。当該プランには、新たに医療的ケア児を含む障害児福祉計画の内容も包含しております。具体的には、平成30年度予算案において、障がい者総合

サポートセンターで、医療的ケアを必要とする重症心身障がい児・者の利用を中心とした短期入所事業をはじめ、（仮称）医療的ケア児・者支援機関関係会議の設置、区立保育園における医療的ケア児の受け入れ等、新たな事業を推進してまいります。区は引き続き、医療的ケア児の支援に関して、生涯を通じた切れ目のない支援の充実に努めてまいります。私からは以上でございませう。

## ▶ 黒澤まちづくり推進部長

私からは、洗足池及び駅周辺の将来についてのご質問にお答えいたします。

洗足池周辺は、水と緑の豊かな自然環境と（仮称）勝海舟記念館として開館予定の歴史的建造物や歴史的記念碑など、自然と歴史の豊かな地域資源を有するエリアでございませう。区はこの間、洗足池周辺のすぐれた景観を保全し、さらに景観づくりを推進するために大田区景観計画における「景観形成重点地区」の指定に向けて取り組んでまいりました。また、「おおた都市づくりビジョン」では、洗足池周辺と馬込、池上を含めた「まいせん」地区のまちの将来像として「歴史・文化・自然の回遊が楽しめる、区民や来街者を惹きつけるまち」としております。さらにビジョンでは、洗足池駅周辺の今後対応すべき課題として「洗足池駅周辺と洗足池公園の一体的整備」を掲げており、地域特性を踏まえた駅周辺の魅力あるまちづくりが求められております。駅及び周辺の整備は、地域住民、事業者の方々との連携・合意が重要であり、区はビジョンで掲げたまちづくりの方向性を踏まえ、今後、関係者・関係機関と協力し、それぞれの果たすべき役割に応じて取り組んでまいります。以上です。

## ▶ 齋藤都市基盤整備部長

私からは、空き家対策に関するご質問にお答えをさせていただきます。

区は、平成28年7月に策定いたしました「大田区空家等対策計画」に基づきまして対策を進めたため、議員お話しのとおり、空家総合相談窓口では相談件数が増えてございませう。また、区では昨年度、継続して指導、助言を行っている300件あまりの空き家所有者等に対し、空き家等の状況に関するアンケート調査を実施してございませう。この調査結果では、空き家所有者の多くは60歳以上の方であること、また、空き家となった理由につきまして

は、建物所有者が入院や施設入所などによるものが増えてございます。このように、高齢化の進行により空き家が増加し、地域住民の生活に影響を与えることが今後とも危惧されます。

現在、区では、こうした空き家等対策に関する課題解決に向けまして、空き家の適正管理を継続的に促すとともに、新たな空き家の発生を予防する観点から、高齢福祉や介護関係の部門等に情報提供するなど、連携を進めているところでございます。また、協定団体である東京日本司法書士会大田支部から提供を受けた相続登記のチラシを戸籍住民課、特別出張所、地域包括支援センター等の窓口で配布するなど、相談窓口のPRにも努めてございます。今後も引き続き、福祉や介護等関係機関との連携を図りながら、空き家対策に関して各種手続きをはじめ、わかりやすい冊子の作成など、効果的な周知の仕方についても検討してまいります。私からは以上でございます。

## ▶青木都市開発担当部長

大森駅東口タクシー乗り場の改善に関するご質問でございますが、当該タクシー乗り場は、現在、駅前広場の駅ビル側に設置されております。歩道には駅ビルから車道側に向かって緩やかな傾斜があり、さらに、タクシー乗り場では歩道が切り下げられております。大森駅東口駅前広場は完成当時、一部区域の維持管理をJR、当時の国鉄が行う旨の管理協定を締結しており、ご指摘のタクシー乗り場はJR東日本の管理区域に含まれております。区といたしましても、駅前広場利用者の安全・安心の確保に向け、ご指摘の点も含め、JR東日本と改善に向けた協議を行ってまいります。

## ▶久保都市基盤整備部長

私からは、まず沢田交差点の交通安全対策についてお答えいたします。

環状七号線と東邦医大通りが交差する沢田交差点は、臨海部に向かう貨物車をはじめ、大型車両の交通量が非常に多く、また、大森駅や平和島駅に通勤や通学などで向かう自転車が多く交差している状況にあります。議員お話しのとおり、沢田交差点内において、平成26年には当時小学生の歩行者が、そして、今年2月には自転車が大型貨物車両に巻き込まれまして死亡する交通事故が発生しております。スクランブル交差点化については、環

状七号線の交通渋滞の悪化や生活道路に迷い込む車両に対する懸念から、警視庁ではスクランブル方式を含む新たな歩車分離制御の信号を導入しない見解と伺っております。今後は、交通管理者や道路管理者をはじめとする各関係機関や団体、地元の代表者などが出席する「大田区交通安全協議会」の中で、交差点の諸課題を含め、より効果的な方策について議論を深めてまいります。

次に、通学路の安全総点検についてのご質問ですが、議員お話しのとおり、平成24年に国土交通省、文部科学省、警察庁の連携のもとで、全国的に通学路緊急合同点検が実施されました。大田区においても、区立小学校で点検を実施し、改善を行いました。現在のところ、平成24年に実施した大規模な総点検を実施する予定はございませんが、平成25年以降も警察、小学校、教育委員会と連携し、毎年15校程度の通学路点検を適宜実施しております。今後も引き続き、児童数の増加など地域の実情や交通の流れや量の変化に合わせ、各関係機関の協力を得ながら、安心・安全に通学できる環境整備を進めてまいります。

## ▶ 後藤教育総務部長

私からは、教育委員会にかかわる二つのご質問にお答えいたします。

初めに、図書館のブックシャワーの設置についてのご質問ですが、ブックシャワーは本の滅菌や消臭、ごみなどの付着物の除去に一定の効果があり、誰もが安心して本に触れられるなど、多くの方に利用されていると聞いております。また、無料で操作も簡単なため、利用者自身が使用できることから、図書館職員の作業の負担増にもなっておりません。このような利点から、現在7館の指定管理者において、また、大田図書館では委託事業者において設置されております。

ブックシャワーについては、利用者が気持ちよく図書館の本を利用できるとともに、本の保全効果もあると考えております。一方で、機器の設置には1台100万円程度必要ということもあり、今後の増設に関しては、指定管理者との間の指定管理の更新の際に導入について協議してまいりたいと考えております。なお、2年後に移転を予定しております池上図書館においては、当初からの設置について検討してまいります。

次に、宇宙飛行士による学習機会についてのご質問ですが、宇宙飛行士である若田氏は、日本人最多となる4回の宇宙飛行を経験されたほか、国際宇宙ステーションの船長を務めるなど、宇宙飛行士として輝かしい業績を残されております。若田氏は、宇宙空間という我々の想像をはるかに超える過酷な条件の中、船長として数々のミッションを実行されて

こられました。その後、「ミッションを達成するためには、仲間への思いやりがチームワークを高めるために不可欠である」と述べられております。宇宙開発という壮大なミッションを達成するために大切にしていた思いやりの話などを、子どもたちが直接若田氏からお聞きすることは、理科や科学への興味が高まるだけでなく、将来の夢や希望に向けた姿勢に大きな影響を与えるものと考えております。なお、JAXAのホームページでは、現時点で宇宙飛行士による講演依頼は大変難しい状況にあるとのことですので、子どもたちが学ぶ場の設定に当たりましては、対象者や開催場所など、どのような機会がふさわしいのか、研究してまいりたいと考えております。私からは以上です。